

岐阜県教育委員会 様

岐阜清流高等特別支援学校長

学校運営協議会 会議実施報告書

このことについて、「岐阜県立学校における学校運営協議会の設置等に関する規則」第8条第1項に基づき、次のとおり学校運営協議会を開催しましたので、その概要について報告します。

- 1 会議名 岐阜清流高等特別支援学校 学校運営協議会 (第3回)
- 2 開催日時 令和5年2月24日(金) 10:00~12:00
- 3 開催場所 岐阜清流高等特別支援学校 会議室
- 4 参加者
- | | | |
|-----|-------|-----------------------|
| 会長 | 土屋 明之 | 障がい者芸術文化支援センター センター長 |
| 副会長 | 清水 達郎 | 芥見南自治会連合会 会長 |
| 委員 | 伊藤 知子 | 株式会社十八楼 女将 (欠席) |
| | 大倉 美江 | すまいる工房株式会社 代表取締役 (欠席) |
| | 林 武 | 岐阜県老人福祉施設協議会 会長 (欠席) |
| | 五十川勝也 | 芥見東身体障害者福祉協会 会長 |
| | 井上 友紀 | 芥見東自治会連合会 会計 |
| | 中野志乃ぶ | 岐阜清流高等特別支援学校 PTA 会長 |
- 学校側
- | | |
|-------|-----------------------|
| 青山 孝 | 校長 |
| 三輪 孝司 | 教頭 |
| 柳原 英紀 | 事務長 |
| 横田 真 | 部主事 |
| 三橋 正康 | 教務部長 |
| 北川 百合 | 進路指導主事 |
| 吉田 徹 | 生徒指導主事 |
| 津田 行代 | 保健安全部長 |
| 谷藤麻以子 | 支援部長 (特別支援教育コーディネーター) |
| 鎌田 文市 | 渉外部長 |

5 会議の概要 (協議事項)

(1) 令和4年度 学校経営目標に対する取組状況について

○新型コロナウイルス感染対策を徹底しつつ、生徒の学びの充実を図る。

○本校における職業教育等を見直し、生徒一人一人の実態や課題に応じた指導・支援を行う。

- 知的障がい程度が軽度である生徒たちが、卒業後に自立した社会生活を送るために必要な力を育成する。
- コロナ禍において新たな業務負担がある中、教員の在校時間の把握、働き方改革に対する意識の向上、勤務時間に対する意識の向上、業務改善の推進、部活動指導の改善などを図る。

(2) 令和4年度 自己評価について

○教務部

意見1：校内組織について課題があるようだが、人事異動の影響はあったのか。清流は軽度知的障がい教育のコアスクールであるため、配慮してもらえるとよい。

意見2：子どもたちも、多くの先生方が転勤していったことは気にしており、不安に感じているようだった。

⇒多くの職員が転勤し新転任者が増えたことにより、開校より積み上げてきたことが、引き継げない状態となった。逆に新たな視点での意見も多く、これまでの取組や課題を見直す機会となった。新しい意見を取り入れながら来年度、組織から見直していく。

○進路指導部

意見1：進路指導については十分に達成できていると感じる。しかし自己評価では就職定着支援に課題が残ったようだがどこに課題があったのか。

⇒実習と就職後の生活に大きな差を感じている。実習でよい評価をいただいても人間関係など様々な理由から離職してしまうケースがある。

意見2：子どもたちや保護者が清流を選ぶ理由に、「一般就労」への思いが強い。親がいなくても自立できるようになってほしいと願い本校を選んでいる。心の強い子を育ててほしい。「子どもにあった就職先を探す」「子どもの可能性をもっと上にあげる」ということを意識して取り組んでほしい。

○生徒指導部

意見1：指導において「クラスによる指導」ではなく「学年による指導」の意識が強いように感じる。

⇒指導においてクラスが主体はあるが、クラスを超えたトラブルが多かった。クラスだけでなく、学年全員が知っているという状況をつくりたいと願い取り組んでいる。

意見2：スペシャリストサポート事業とはどういった事業か。

⇒問題行動等があった場合に、専門家を派遣してもらうことができる。今年度は、本校はスクールカウンセラーが男性であるため、女性のカウンセラーを派遣していただいた。

○保健安全部

意見1：新型コロナのクラスターもない良い状態である。「避難所開設訓練」とあるが、本校もその対象か。

⇒近隣の岐阜市教育研究所が第1避難所であるが、清流は第3避難所になっている。人数が収まらない場合、本校を使用することになる。

意見2：コロナは未だ継続中であるため、引き続き対策に取り組んでほしい。

意見3：体育的な活動は行っているか。

⇒スポーツ交流会を11月に行っている。

○支援部

意見1：コア・スクールを活用した特別支援学校全体としての研修は行っていないか。

⇒HPなどで案内をしたが参加は少なかった。「軽度知的障がい」に対するニーズが少ないと感じる。

意見2：なぜ「知的障がい」ではなく「軽度知的障がい」のコア・スクールなのか。

⇒岐阜県には、障がい種ごとにコア・スクールがある。総合型の特別支援学校は、その約9割が知的障がいの児童生徒であり、それぞれが各地域のコア・スクールの役割を果たしている。「軽度知的障がい」を対象とする学校は本校と西濃高等特別支援学校の2校であるため、その2校の中のコア・スクールである。

意見3：来年度より「研修主事」が配置されるが、具体的にはどのような業務を行うのか。
⇒今年度より教員免許更新講習が廃止されたこともあり、教員研修の充実を図る業務となる。

○渉外部

意見1：アンケート項目の「保護者と一体になってPTA活動を進めている」での80%は非常に高い。保護者がPTA活動に理解を示していることがわかる。

意見2：コミュニティスクール制度による地域住民の意識に変容はあるか。
⇒（運営委員より）深まっているとは言いが、皆優しい目で見ている。今年度実施された芸術鑑賞会など、学校で行うイベントを紹介してくれると足を運んでくれるだろう。

⇒（運営委員より）地域の学校として清掃活動に参加している。このような活動を通じて住民の意識は高まっていると感じる。

意見3：芥見東地区の夏祭りなどにぜひ参加してほしい。以前は喫茶営業があり、地域の方の話題の中にも「先日喫茶に行ってきた」などの会話があったが、今はコロナで利用できないため話題にならない。今後コロナ対策が緩和され営業が始まるとよい。

意見4：専門コースの販売活動はまだ難しい状況にあるか。
⇒県の方針としては販売における制限が緩和されてきているが、本校としては生徒の安全を考慮し、今年度は保護者までとした。

(3) 令和4年度 3年生の進路状況について

意見1：就職者の入社はいつか。
⇒4月1日が多いが、企業によっては3月中より入社する生徒もいる。企業によって違う。

意見2：大手企業に就職する生徒がいる。会社の規模も大きいため、やっていけるのか心配である。

(4) 令和4年度 資格取得・部活動取組について

意見1：働き方改革という視点で、部活動指導者はどのようにしている。
⇒本校は全職員が担当しており、曜日などで分担している。社会人指導者の活用などの部活動の地域化は主に中学校で行っている。本校は行っていない。

(5) 専門コースの新製品価格設定について

意見1：新製品も含め、販売は行うか。
⇒販売は行うが、一部本校で販売しないものもある。工業コースの「マルチスティック」は岐阜県特別支援学校オリジナルブランド「Gホープ」で販売する。
⇒食品コースのパンについては、材料の価格高騰もあり、値上げする可能性がある。

(6) 令和5年度 学校経営計画について

意見1：校訓にある「共生」（人、地域や社会、自然と協調できる豊かな心）に、「他人を認める」「思いやる」のようなワードが入るとよい。

6 会議のまとめ

- ・令和4年度学校経営目標に対する取組状況について承認が得られた。
- ・令和4年度自己評価について承認が得られた。
- ・令和4年度3年生の進路状況について承認が得られた。
- ・令和4年度資格取得・部活動取組について承認が得られた。
- ・専門コースの新製品価格設定について承認が得られた。
- ・令和5年度 学校経営計画について承認が得られた。

○多くの意見をいただくことができた。学校が改善すべき内容があり、それを聞くことができるのはありがたいことである。コロナ対策が緩和されてくるため、喫茶営業などで多くの地域の方に来ていただき、生徒が忙しくて仕方ないほどの状態にしたい。応援していただけることに感謝し、本協議会でいただいた意見を踏まえ検討し、来年度の実践に繋げていく。